

小中一貫教育の推進	中期 (3年間) 経営目標	短期(今年度) 経営目標 (1/3)	目標達成のための手立て	評価指標	自己評価		学校関係者評価		改善計画
					12 月 評 価	結果と課題の説明	適 正	意見等	
確かな学力	学力の三要素、資質・能力を育成する「主体的な学びを促す授業」の実践	基礎的・基本的な学習が定着した児童 1/3	・授業・ドリル・学び直しの時間を無駄に即した内容で行い、基礎学力の確実な定着を図る。 ・読書習慣の定着を図る。(たくさん読む) 【教務部】	①単元末テストの達成度(学期毎)国語・算数(各観点)80%以上の児童80%以上 ②標準学力調査の達成度を全国平均値以上 ③読書貯金の低・中・高の目標達成率80%以上	B	①2学期の単元末テストの達成率 80%以上の児童は、国語 86%、算数 85%であった。引き続き、児童が主体的に学習に取り組めるように、授業改善を行い、基礎学力の定着を図る。また、授業初めに小テスト等を行い、児童の理解度を把握して、指導につなげたり基礎学力の定着を図ったりする。さらに、式と解を導き出すだけでなく、対話的な学びの場を設定し、言葉や数、式を使って説明させ、学級全体の理解度を高める。【○】 ※資料① ②標準学力調査の達成度が全国平均値以上の学年は6学年中4学年であった。確かな学力を付けさせるため、標準学力調査の結果分析を行い、児童の躓きを把握し、指導改善を行う。 ③読書貯金の目標を達成した児童は90.6%であった。家庭学習として毎日読書をするように設定したり、必読ブックリストの活用やブックトークの開催などをしたりしているが児童によって取組みに差がある。児童と共に保護者に読書のよさを紹介し、読書推進を行う。【◎】	○	○前期に比べて、単元末テストの達成率 80%以上の児童が増えている。引き続き、学力向上のため、授業改善に努めてほしい。 ○家庭と連携しながら子ども達の読書の量と質を高めていく必要がある。	・週に1回はメクビット等を使い、活用問題に取組ませる。 ・読書を家庭学習で毎日取組ませ、読書量を増やし、読解力の向上を図る。読書活動を推進するために、必読ブックリストを活用する。 ・45分間の授業の中で、確実に授業のまとめと学びの振り返りを行い、基礎的・基本的な知識技能の習得を図る。
		主体的・探求的な学びの姿勢を持つ児童 1/3	・児童の「問い」から生まれた課題設定による対話的な学びを展開する。 ・ことばタイムやことば探究科等により語彙力を増やし、自分の考えを発信する活動を展開する。(日記・俳句・意見文・読書感想文・新聞等) 【教務部】	①「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」と答える児童80%以上 ②「自分の考えを表現するのが楽しい」と答える児童80%以上	A	①児童質問「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」と肯定的な回答をした児童は、93%であった。授業では、自分の考えを選択させたり、意図的に、対話をする場面を設定したりした。また、友達のを聞く際に必ず反応させたり、つなぎ言葉を使用して発表させたりすることで、児童の考えを深めたり広げたりすることにつなげた。【◎】 ②児童質問紙「自分の考えを表現するのが楽しい」と答えた児童は、89.1%であった。目標の達成に向けて考えたり、友達と協力して話し合ったりしたことを様々な方法で意欲的に表現できた。(プレゼンテーション等) 継続して、児童が主体的に活動できるようにいろいろな表現をする場面を設定していく。【◎】	◎	○学校全体として取組んでいることが、成果となって表れている。 ○友達と協力して学びを深めていくことを通して、心を育てる教育を行ってほしい。	・引き続き、「聴き方名人」を活用し、友達の考えを聞く際に必ず反応させたり、つなぎ言葉を使用して発表させたりする指導を行う。 ・人前で発表する経験を積みませ、自分の考えを表現する力を高める。また、取組みの振り返りを行い、身に付けた力を評価し、価値付ける。他教科の学習や生活の中でも取組んだ内容等を活用させる。
地域とつくる学校	地域とともに育つ児童の育成	地域の課題に向き合い地域とともに学ぶ児童	・地域の課題に向き合い、地域とともに学ぶ授業を展開し、地域人材を計画的に活用する。 ・積極的に情報発信を行う。(学級・HP・CSなど) 【CS】	①各学年、地域の方との学習を年間3回以上仕組む。 ②地域への貢献度や地域の方との学習満足度を向上させる。(児童アンケート、肯定的評価90%以上)	B	①【○】 ・1・2年生は、サツマイモと生姜の収穫を、地域の方に協力をいただき、一緒に行った。また、収穫をお手伝いいただいた地域の方をお招きし、収穫祭を行った。 ・3年生は、くにひろ屋と風月堂へ社会見学に行った。また、翁車太鼓の練習で我龍の方に指導をお願ひした。 ・4年生は、エコキャップやプラダの回収を行い、地域の方にも回収に協力をいただいた。また、福祉体験(高齢模擬体験、車いす体験)を行い、社会福祉協議会上支所の方に指導していただいた。12月には、全盲の音楽家の方に来てい	○	○全学年で地域との関りを深める学習ができています。今後も、ふるさと上下に愛着や誇りをもてる教育活動に積極的に取組んでほしい。 ○学習に協力できる人材が必要な場合は、いつでも相談してほしい。	・来年度の活動の充実につなげるため、今年度の取組みを振り返り、情報を共有する。 ・地域への貢献度と学習満足度の向上につなげるため、地域の方々と児童、それぞれの思いや願いを取入れた活動を検討する。

					<p>ただき、ライブを鑑賞したり、講演を聞いたりした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5年生は、JAの協力により、稲刈りを行った。 ・6年生は総合的な学習の時間で、上下歴史文化資料館の協力を得て、上下南小学校と合同で町探検を行った。そこでは、上下南地区のガイドさんに案内してもらったり、地域の方の協力を得て、泊まれる家 天領上下にて茶道体験を行ったりした。 ・茶道クラブで、地域の方々に年間を通して指導をお願いしている。 <p>②児童アンケート「地域への貢献度や地域の方との学習満足度」の肯定的評価は92%（1学期89%）であった。年間を通して地域の方との学習を実施し、児童の意識をさらに向上させたい。【○】 ※資料②</p>			
<p>健やかな体・豊かな心</p>	<p>自律した児童の育成 【規範意識と自己肯定感 自己有用感の育成】</p>	<p>健康な体を作るために自分の記録に挑戦する児童 1/3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行事に目標をもって取組ませる。「北小ギネス」「食育19の日」 ・基本的な生活習慣を身に付けさせる。 <p>【生活部】</p>	<p>①新体力テストの種目における県平均達成率80%以上</p> <p>②ストップ9、早寝・早起きができる児童80%以上（アンケート）</p>	B	<p>①新体力テストの種目における県平均達成率は、64%（61/96種目：6学年男女×8種目）であった。種目別では、50m走が25%、20mシャトルランが42%と、達成率が低かった。（1学期実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月、50m走の測定時の男女別学年別の平均値で全国平均を上回ったものは2/12であった。課題に基づき、体育科の授業改善や、体育的行事を通じた取組み、休憩時間等の外遊びの推奨を行った。その結果、12月～1月に50m走の再測定を行ったところ、学年別男女別の平均値で全国平均を上回ったものは8/12となり、児童の記録を向上させることができた。 ・今後も運動の楽しさを味わわせるとともに、体育科の授業改善や行事に向けた取組み等を通じて、走運動を中心に体力の向上を図っていく必要がある。【▼】 ※資料③ <p>②児童アンケート「ストップ9」「早寝」「早起き」の肯定的回答は、82%（1学期80%）であった。ストップ9を守れていない児童が28%（1学期30%）、就寝時刻が22時を過ぎる児童が15%（1学期18%）いた。児童への指導を継続して行うとともに、お便り等を通して家庭への啓発を行い、協力を得る必要がある。【○】 ※資料④</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> ・「ストップ9」等、規則正しい生活習慣を身に付けていくため、今後も保護者に協力を得て「生活調べ」（早寝・メディアアンケート）を実施する。 ・保護者への啓発のため、「生活調べ」の結果を保健だより等で知らせる。 ・保護者への啓発のため、生活習慣について年間を通して学級懇談会での話題として取り上げ、学校から情報提供を行ったり、保護者同士での情報交換の場を設けたりする。
		<p>自他を大切にし、相手を思いやり、気配りができる児童 1/3</p> <p>【掃除の目指す姿】 黙って、見つけて、協力して、丁寧に</p> <p>【挨拶の目指す姿】 ★地域・お客様・先生へレベル5の挨拶ができる ★場に応じた挨拶ができる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「無言掃除の徹底」自分で考えて動く掃除を充実させるとともに、縦割り班班長をリーダーとして振り返りの充実を図る。 ・「挨拶の徹底」児童会活動を中心とした挨拶の励行・肯定的評価・徹底を図る。 ・自己開示できる居心地の良い学級づくりの充実 <p>【生活部】</p>	<p>①「無言・丁寧・自分で見つけて掃除ができていく」と答える児童90%以上（アンケート）</p> <p>②「レベル5の挨拶に取組んでいる」と答える児童90%以上（アンケート）</p> <p>③「安心して学級で生活できる」と答える児童90%以上（アンケート）</p>	A	<p>①児童アンケート「無言・丁寧・自分で見つけて掃除ができていく」の肯定的回答は、95%（1学期91%）であった。これまでの取組みを継続するとともに、特に水回りをきれいにするよう声掛けや指導を行っていく。【○】 ※資料⑤</p> <p>②児童アンケート「レベル5の挨拶に取組んでいる」の肯定的回答は、98%（1学期97%）であった。児童の自己評価の数値も達成していたが、教職員から見ると十分に至っていないように感じる。継続して、教職員が児童へ積極的に挨拶をする取組みを行っていく必要がある。【◎】 ※資料⑥</p> <p>③児童アンケート「安心して学級で生活できる」の肯定的回答は、94%（1学期94%）であった。いじめアンケートの実施・担任と児童との面談・SCの活用などを行い、児童の悩みを解決する取組みを継続中である。【◎】 ※資料⑦</p>	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・「あいさつマイスター」が自信をもって気持ちのいいあいさつをしており、よいあいさつが広まってきている。 ○子ども達は、元気のいいあいさつをしてきている。 △安心して学級で生活できる児童が100%になることを目指して、学級担任以外の教職員も積極的に子供達と関わりをもってほしい。 <ul style="list-style-type: none"> ・レベル5の挨拶ができる児童を増やしていくため、今後も職員からの挨拶や「あいさつマイスター」等の取組みを継続する。 ・児童の悩みを解決できるよう、引き続き、いじめアンケートの実施、担任と児童との面談、スクールカウンセラーの活用などに取組む。 ・児童が安心して学級・学校で生活できるようにするため、児童についての情報交流を継続し、全職員が全校児童の状況を把握したり積極的に関わったりしていく。